

歴博をあるく

百姓往来の「覆盆子」

広報部会

皆さんは第三室の寺子屋体験をされたことがありますか？歴博編集の寺子屋教本には邑名手本・実語教・百姓往来・養蚕往来などの一部が掲載されています。多くのお客様からは、この本は販売していないの？と尋ねられますが、残念ながら現時点では販売されていません。

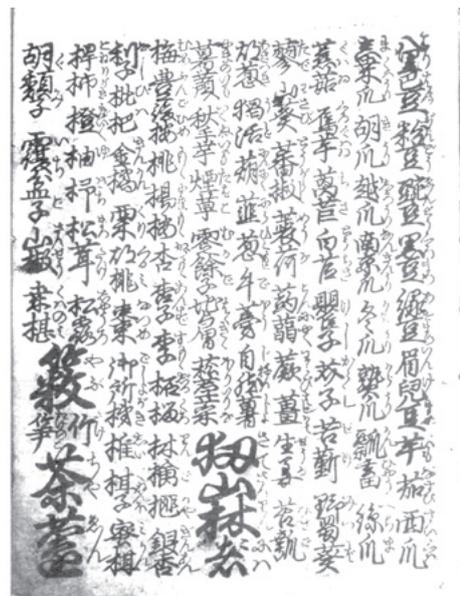
さて、この百姓往来の中に穀類の種類や野菜・果実などの名前を記載された頁があり、左端上から二つ目に「覆盆子」が載っています。ふりがなは「いちご」となっています。江戸時代に「いちご」が生産されていたことの証です。寺島良安が著した「和漢三才図会」の東京美術本は歴博図書館でも見ることができ、「蓬蘽」「覆盆子」「蔗」「樹莓」「蛇莓」の五種類のいちごがあります。和名は順に「つるいちご」「いちご」「べにいちご」「きいちご」「くちなわいちご」と読むのだそうです。小野蘭山の著した「本草綱目啓蒙」によると「覆盆子」は「トックリイチゴ」「ナツイチゴ」と言われ、今は中国浙江省にある種類だそうです。この「覆盆子」はつる性で、茎にはトゲが多く、高さは2m前後、葉は互生でより狭い五葉あるいは七葉がつき、実は紅紫色をしているとのこと。『和漢三才図会』や『本草綱目啓蒙』の訳本は平凡社発行の東洋文庫にもあります。

この「覆盆子」は歴博のある佐倉でも栽培された記録があります。『佐倉藩紀氏雑録』の上意・拝領物・献上物の項で老中となり山形から佐倉に移封した堀田正亮が時の大御所（吉宗）や将軍（家重）に当所（佐倉）の「覆盆子」を四月の下旬（現在では五月二十日頃）に献上しています。しかも数日後2度も献上していることを見ると時の将軍は「覆盆子」がとてもお気に入りであったようです。

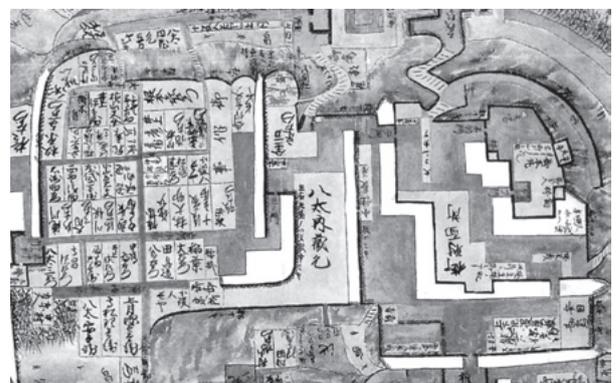
稲葉家家臣であった渡邊善右衛門が著した「古今佐倉真佐子」の「天神曲輪より裏表広小路、中下町、大下町辺之趣」の項に平仮名で樹木畠のはちや柿の根本一めん「いちご」がうえてある也と記されています。

「いちご」は前述の諸書により「覆盆子」と同一と解釈することができます。中下町石崎の屋敷向いの樹木畠は善右衛門作の「総州佐倉御城府内之図」で確認できます。佐倉城主が稲葉家から堀田家に移行するのは、23年後になるのですが、堀田正亮が献上した「覆盆子」はこの樹木畠で収穫されたものなのか、それとも大御所から拝領した「宮重大根の種」を栽培したと思われる佐倉藩古例にある御菜園なのでしょう？

皆さんも歴博で歴史の推理や面白さを楽しんでみませんか。



「百姓往来」 抜粋（本館蔵）



「総州佐倉御城府内之図」 抜粋
平成29年3月佐倉市刊行